

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

むかわ町恐竜ワールド構想推進プロジェクト～心に響くデザインを活用した恐竜のまちづくり～

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道勇払郡むかわ町

3 地域再生計画の区域

北海道勇払郡むかわ町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

●「むかわ竜」の価値に対する町民の認識不足

平成29年5月のNHKスペシャル放送後の6月に、主に町民を対象とした「むかわ竜」の一般公開（計2日間）を町内で行った。5月の放送からわずか1ヶ月しか経過していない中での開催にも関わらず、2日間の観覧者数は5千人を超え、「むかわ竜」の持つ地域資源としてのポテンシャルが再確認されたところである。しかしながら、主に町民を対象として一般公開を行ったにも関わらず、町内からの観覧者数は両日合わせて約200人と全体の4%であり、「今世紀最大の発見」である「むかわ竜」の価値が多く町民には伝わっておらず、町民の意識や誇りが醸成されていないことが課題となっている。

本町の人口の約2/3を有している旧鶴川町エリアは、化石が産出されることはないため、多くの住民は貴重な地域資源である化石の価値に対する理解が不足している。一方、旧穂別町エリアは、「化石の里ほべつ」として、古くから有名な化石の産地であり、化石の学術的な価値を世界に発信し続けていたが、既存の博物館建設時の経済効果を地域産業へ波及させることができなかったことから、恐竜化石の産業的な価値に対して、懐疑的な住民が多い状況となっていることが要因と考えられる。

●道内外へのPR不足

本町の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、基本目標として「恐竜化石

を活かしたまちづくり」を掲げており、地元産化石を新たな地域振興の目玉としているが、本町が、平成28年度に本町来訪者を対象に実施したアンケート調査の結果、「恐竜のまちのイメージを持っていない」という回答が5割を超えており、本町の来訪者の9割が道内客（うち7割以上が近隣市町村から）という事情を考慮すると、「むかわ竜」をはじめとする恐竜化石などの地域資源の魅力を活かしきれていないことが課題となっている。

また、道外から本町への来訪者数は北海道観光入込客数調査（北海道観光局）によると、平成26年度は6.1千人、平成27年度は5.2千人、平成28年度は4.9千人と年々減少しており、道外へのPRが不足していることも課題となっている。

「むかわ竜」は研究段階であったため、当初はPRできる情報が少なかったこと、また、町の広報媒体がHP及び広報誌のみであり、SNSを活用した情報発信の取組が遅れていることが要因と考えられる。

●低い観光消費額

穂別博物館の規模では、「国内最大の恐竜全身骨格化石」である「むかわ竜」を展示することはできない。そのため、平成30年3月に博物館周辺エリア再整備基本計画を策定し、新たな穂別博物館の整備に向けた準備を進めている。

新たな穂別博物館は、建設直後は年間35千人（平成5年度の観覧者数（過去最大値））以上の観覧者数を見込んでおり、多くの産業効果が期待されるが、平成28年度のアンケート調査の結果、恐竜化石を目当てに本町に来訪した方のうち4割が、買物・土産代に使用した金額は「0円」と回答しており、来訪者の購買意欲をかき立てるような恐竜関連グッズ等が無く、その経済効果を町全体に波及できていないことが課題となっている。

町内に観光客を滞在させ、消費を促すモノ（恐竜関連グッズ等）・コト（化石発掘体験などの体験型メニュー）と、その作り手・売り手が乏しいことが要因と考えられる。

4-2 地方創生として目指す将来像

むかわ町は道央圏の南方、胆振管内東部に位置し、道都・札幌市や北海道の空の玄関・新千歳空港や海の玄関・苫小牧港にも近く、日高・十勝方面への交通の要衝にあり、平成18年3月に旧鶴川町と旧穂別町が合併し誕生した町である。人口8,319人（平成30年5月末現在）、面積は胆振管内最大の711.36㎢（琵琶湖とほぼ同じ広さ）で、東西および北部の三方を日高山

脈系の山々に囲まれ、全国でも屈指の清流度を誇る一級河川鶴川が南北に縦走し、南部に面する太平洋に注ぐ。海・山・川と多彩な自然環境に恵まれ、地域ブランド「鶴川ししゃも」や「ほべつメロン」をはじめ、レタスやトマト、長いもやかぼちゃなど豊富な農林漁業の特産品を誇る。

本町穂別地区に分布する中生代後期白亜紀の海成層（海の地層）である蝦夷層群は、平成 30 年に北海道の天然記念物に指定されたホベツアラキリュウ（海生は虫類であるクビナガリュウの一種であり、恐竜ではない）に代表されるとおり、海生の古生物化石群が豊富に発見される地層であるが、平成 15 年に、穂別稲里で発見された脊椎動物化石が、その後、北海道大学総合博物館の小林快次准教授の調査によって、陸生のハドロサウルス科恐竜化石（通称：「むかわ竜」）であること、「国内最大の恐竜全身骨格化石」であることが判明した。

これまで国内で発掘された恐竜化石は、多くとも全身の 3 割～4 割ほどが発見されるに留まるが、「むかわ竜」は頭から尻尾まで全身の約 8 割が発掘されており、世界的に見ても非常に保存状態が良い貴重な恐竜全身骨格化石である。また、「むかわ竜」には、「日本初の中生代後期白亜紀（ティラノサウルスをはじめとする恐竜の大繁栄時代）の恐竜全身骨格化石」、「日本初の植物食の恐竜全身骨格化石」、「日本初の海成層から発見された恐竜全身骨格化石」という、3 つの日本初という特徴を持っており、学術的な価値はもちろんのこと、教育的、資産的、戦略的、産業的な価値を有している。

「むかわ竜」の発見を受けて、平成 27 年 4 月に記者発表を行い、「今世紀最大の発見」としてメディアが大々的に報じ、平成 29 年 5 月には NHK がむかわ竜の特集番組（NHK スペシャル）を放映するなど、国内外から非常に大きな注目を浴びることとなった。

本町では、「むかわ竜」の持つ価値を「恐竜化石を活かしたまちづくり」「地元力を高めるまちづくり」「持続可能なまちづくり」の 3 つの視点を通じて「地域資源を活かした活気あふれるまち むかわ」をめざす「むかわ町恐竜ワールド構想」（以下、「構想」という。）を平成 27 年度に策定。構想は本町の地方創生リーディングプロジェクトに位置づけられており、平成 28 年度には構想を推進するための具体的な施策を盛り込んだ「むかわ町恐竜ワールド構想推進計画」（以下、「推進計画」という。）を策定した。

現在、推進計画に基づき、まちの魅力向上と交流人口・関係人口（関係人口：むかわ町に関心を持ち、まちづくりに関わりたいと考える町外者）の拡大に向け、核となる施設である本町穂別博物館の新館建設準備などを進めて

いる。

交付対象事業の背景として、穂別博物館では、新館建設直後は年間 35 千人（平成 5 年度の観覧者数（過去最大値））以上の観覧者数を見込んでいるが、その後も、多くの観覧者を継続的に呼び込むため、むかわ町の地域ブランドの向上や観覧者を満足させるモノ（恐竜関連グッズ等）・コト（化石発掘などの体験型メニュー）の開発・充実が急務となっている。

しかしながら、本町だけが持つ恐竜全身骨格化石「むかわ竜」をはじめとする地域資源を十分に活かしきれておらず、北海道観光入込客数調査（北海道観光局）によると、北海道全体としての観光入込客数は増加しているが、同じ調査の結果を見ると、本町への観光入込客数は減少しており、PR 不足や受入体制が整っていないことから、その恩恵を十分に受けているとは言えない状況である。

そのため、本事業により、町の PR を行い、穂別博物館の新館建設後も継続して観覧者を呼び込むことができるようなモノ・コトの開発・充実を図り、交流人口・関係人口の拡大を目指す。

また、推進計画では、構想に基づく事業推進主体の整備と、運営を担う人材確保・育成を進めることとしている。現在、本町では、町民主体の民間組織である「むかわ町恐竜ワールドセンター」の運営を町補助金により支援しており、将来的には、むかわ町恐竜ワールドセンターやむかわ町観光協会などを核とした DMO（DMC）の形成による自立を図り、この事業推進主体が自ら稼ぐ力を発揮することで、その経済効果が町内全域に波及することを目指す。

加えて、交付対象事業とは別に、「むかわ竜」が発掘された現地での発掘体験ツアーやツアーガイドの育成などを目的とした事業を、民間事業者（株式会社 JTB、むかわ町観光協会など）と連携しながら進めている。

さらに、本町では、平成 29 年度に群馬県の桐生大学・桐生大学短期大学部（以下、「桐生大学」という。）と相互協力協定を締結している。この繋がりを活用し、今年度からは桐生大学アート・デザイン学科との連携を進めていくこととしており、特に、学生と町民が協働で地域の魅力の掘り起こしを行うことで、町民の意識や誇りの醸成が図られ、さらに掘り起こした魅力を桐生大学の持つアート・デザインの力でブラッシュアップし、外向けに発信することで、本町の地域ブランドを強化していく。

【数値目標】

| | 事業開始前 (現時点) | H30 年度 増加分 1 年目 | H31 年度 増加分 2 年目 | H32 年度 増加分 3 年目 | KPI 増加 分の累計 |
|-------------------|----------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------|
| 穂別博物館来館者数 (人) | 19,389 | 1,500 | 2,500 | 3,500 | 7,500 |
| PR 動画の閲覧件数 (件) | 0 | 0 | 13,000 | 26,000 | 39,000 |
| 恐竜関連グッズ等売上額 (千円) | 326 | 500 | 1,500 | 3,000 | 5,000 |
| 恐竜関連グッズ等開発商品数 (件) | 5 | 10 | 15 | 20 | 45 |

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

本事業では、本町の地方創生リーディングプロジェクトである、むかわ町恐竜ワールド構想を実現する上での課題となっている (1)「むかわ竜」の価値に対する町民の認識不足、(2)道内外への PR 不足、(3)低い観光消費額の解決を図るため、①事業推進主体 (DMO (DMC)) の形成、②本町だけが持つ恐竜全身骨格化石「むかわ竜」をはじめとする地域資源を活用したタウンプロモーション・地域ブランディング、③恐竜関連グッズ等の試作品開発・マーケティング調査、④恐竜関連産業 (恐竜関連グッズ等の開発やレプリカ作成など) の起業に向けた相談窓口の整備・支援を実施する。

また、交付対象事業とは別に、関係人口創出のため、町内の空き家等をリノベーションし、アトリエ機能や関係案内所機能を持った拠点を整備するほか、交流人口拡大に向け、株式会社 JTB 等と連携し、着地型ツアー商品の開発やツアーガイドの育成をするなど、受入環境を整備する事業を実施する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金 (内閣府) : 【A3007】

① 事業主体

北海道勇払郡むかわ町

② 事業の名称：むかわ町恐竜ワールド構想推進プロジェクト～心に響くデザ

インを活用した恐竜のまちづくり～

③ 事業の内容

●事業推進主体の形成

⇒推進計画では、構想に基づく事業推進主体の整備と、運営を担う人材確保・育成を進めることとしており、本事業において、むかわ町恐竜ワールドセンターやむかわ町観光協会などを核としたDMO（DMC）の形成を、平成32年度中に実施する。

また、平成30年1月に旅行業法が改正され、規制が緩和された地域限定旅行業務取扱管理者の制度を活用し、DMO（DMC）が自らツアーを企画・販売し、その収益による自立性確保を目指す。

加えて、将来的には、新たな穂別博物館の指定管理（ミュージアムショップの運営・体験型メニューの実施を含む）の受託による収入も想定している。

●本町だけが持つ恐竜全身骨格化石「むかわ竜」をはじめとする地域資源を活用したタウンプロモーション・地域ブランディングの実施

⇒桐生大学の学生と町民が連携し、「むかわ竜」をはじめとする地域資源を活用したタウンプロモーション・地域ブランディングを実施する。具体的には、桐生大学が所在する群馬県の郷土かるたである「上毛かるた」（※1）をモデルとして、アート・デザインの技法を取り入れた「むかわ町お宝かるた（仮称）」を町民の手により作成する。作成の過程で、町民と学生が交流しながら、地域の魅力（町の誇り・面白いこと）を掘り起すことで、むかわ町が恐竜のまちであるという意識や誇りが醸成される。完成したかるたは、町の観光ガイドブックとして取りまとめ、様々な媒体で発信することで、本町の地域ブランドの向上を図る。

また、かるたのモチーフとなる「町の誇り・面白いこと」をPRする動画を作成・配信するほか、SNS等も活用して道内外へPRすることで、本町の知名度向上を図る。

●恐竜関連グッズ等の試作品開発・マーケティング調査の実施

⇒事業推進主体の自立性を確保するためには、安定した収益の柱が必要となる。そのため、「むかわ竜」をはじめとする地域資源を活用した、恐竜関連グッズ等の試作品開発・マーケティング調査を民間事業者等と連携して実施する。

マーケティング調査は、平成31年度から実施を予定しており、平成31年度は首都圏、平成32年度は札幌圏の恐竜博覧会を対象として実施する。

平成 31 年度に東京で「恐竜博 2019」(前回 (2016 年) 開催時の総動員数は約 60 万人) の開催が予定されており、首都圏・札幌圏で恐竜関係の博覧会の開催を予定している主催者からは、「むかわ竜」は大変大きな注目を集めており、その会場に「むかわ竜」を出展できる可能性が高まっていることから、そこでマーケティング調査を実施することは、事業推進主体の自立性を確保するための収益の柱となる恐竜関連グッズ等のブラッシュアップを行う上での、またとない機会となることが期待される。

●恐竜関連産業(恐竜関連グッズ等の開発やレプリカ作成など)の起業に向けた相談窓口の整備・支援の実施

⇒町内で、恐竜化石をはじめとする地域資源を活用した起業を目指す事業者向けの相談窓口を整備し、支援体制を構築する。

また、町内での起業に対しては、本町独自の補助金(起業力耕上補助金(※2))により支援を実施しているが、その一環として、恐竜化石をはじめとする地域資源を活用した新たな事業展開を行う事業者や新規起業を行う事業者に対して、桐生大学と連携し、アート・デザインの観点から、商品パッケージ、広告・HP 作成、店舗の空間デザインなどに対するアドバイスをする仕組みづくりを行うことで産業振興の推進を図る。

本事業は、桐生大学との連携を核として実施することとしているが、将来的には、本町と相互協力協定を結んでいる北海道大学総合博物館の学生や、町内外のアーティストなども本事業に参画していただけるような幅広い展開も想定している。

(※1) 上毛かるたとは

⇒昭和 22 年に発行された、群馬県の郷土かるた。群馬県の名所、歴史文化、産業経済、人物などを子どもたちに伝えるために作られ、広く県民に普及している。

(※2) 起業力耕上補助金とは

⇒町独自の補助金。本町の特色や地域資源を活用した新たな事業展開を行う事業者、特産品の開発、増産、販路開拓及び販売促進を行う事業者又は新規起業を行う事業者に対し、当該事業に係る経費の一部を補助することにより、地域資源の付加価値向上、新たな特産品や産業の創出、及び新規起業の促進を目的とする。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

●桐生大学の学生の持つアート・デザインの手法等を活かした試作品をはじめ、本事業で製作された恐竜関連グッズ等の試作品を、むかわ町恐竜ワールドセンターやむかわ町観光協会をはじめとする民間事業者が製品化し、首都圏・札幌圏でのマーケティング調査を通じて、「売れる」「稼げる」商品としてブラッシュアップし、販売していくことで、その売上により事業推進主体の自立性を確保する。

●平成30年1月に旅行業法が改正され、地域限定旅行業務取扱管理者の規制が緩和されたため、事業推進主体が管理者資格を取得し、化石発掘体験などの体験型ツアーを企画・販売することで、その売上により自立性を確保していく。

また、地域再生マネージャー事業により行われるツアーの参加者の意見やノウハウを蓄積しておき、その内容を反映させたツアーを事業推進主体が企画・販売することで、より魅力的で売れるものとしていく。

●事業推進主体である DMO (DMC) 形成後は、新たな穂別博物館の指定管理の受託も想定しており、その委託料収入に加え、DMO (DMC) 構成員からの会費を徴することで、自立性を確保していく。

【官民協働】

本事業は、推進計画に基づき、町が様々な関係者間の連絡調整を行い、むかわ町恐竜ワールドセンターやむかわ町観光協会を核とした DMO (DMC) を形成し、町内はもとより町外の恐竜関連産業に関心のある企業の出資も受けながら、本町の恐竜化石を活かしたまちづくりを進めることができる組織とする。DMO (DMC) 形成後、町は構成員として関わりを持っていくが、あくまでも民間主導の組織として、恐竜関連グッズ等や体験型ツアーの企画・販売などにより、自ら稼ぐ力を身につけ、自走を図っていくことを目指す。

【地域間連携】

道内の恐竜化石を活かしたまちづくりを進める自治体が参画し、北海道が主体となって設置された「北海道恐竜・化石ネットワーク研究会」において、本町の恐竜化石を活かしたまちづくりの取組の情報共有を図る。平成30年2月には、北海道知事の執行方針の中で、道が地域と一体となって恐竜・化石など地域の資源を活用した取組を展開していくとされており、道内の恐竜・化石を活かした取組の重要度は増している。

また、兵庫県丹波市、篠山市、熊本県御船町及び本町で平成29年11月に「に

「つぼん恐竜協議会」を設立しており、全国的な機運の高まりも見えてきたところであるため、本事業による取組は、道内はもちろん道外の化石産出自治体と協力した取組（広域周遊ルートの形成や相互PRなど）への発展を目指して推進していく。

町単独でのPRや町民意識や誇りの醸成も行っていくが、全道・全国の自治体とも、こうした連携を行うことで、本町はもとより他の自治体も含めた広域的なPR、意識や誇りの醸成につながっていく。

【政策間連携】

本町だけが持つ恐竜全身骨格化石「むかわ竜」をはじめとする地域資源を活用したタウンプロモーション・地域ブランディングの実施により、本町が「恐竜のまち」であるという認知度が向上し、観光客の増加や、グッズ販売の収入増による産業振興が図られる。

また、学術振興も図るため、「むかわ竜」は将来的に国の文化財（天然記念物）としての指定を目指す予定である。

本町教育委員会所管の穂別博物館では、地元産の実物化石にこだわった展示を大切にしており、研究機関としての穂別博物館と連携して、博物館が長年にわたって培ってきた研究成果を「本物志向」の恐竜関連グッズや体験ツアー等のバックグラウンドとすることで、商品・サービスの高付加価値化を図ることができる。

また、高付加価値化を図った恐竜関連グッズや体験型ツアー等を販売することで、穂別博物館の知名度向上にもつながり、博物館来館者数の増加にも寄与するものである。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

| | 事業開始前 (現時点) | H30 年度 増加分 1 年目 | H31 年度 増加分 2 年目 | H32 年度 増加分 3 年目 | KPI 増加 分の累計 |
|-------------------|----------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------|
| 穂別博物館来館者数 (人) | 19,389 | 1,500 | 2,500 | 3,500 | 7,500 |
| PR 動画の閲覧件数 (件) | 0 | 0 | 13,000 | 26,000 | 39,000 |
| 恐竜関連グッズ等売上額 (千円) | 326 | 500 | 1,500 | 3,000 | 5,000 |
| 恐竜関連グッズ等開発商品数 (件) | 5 | 10 | 15 | 20 | 45 |

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度、町の創生総合戦略推進組織である「むかわ町まち・ひと・しごと創生本部」、及び町の諮問機関である「むかわ町まちづくり委員会」において、PDCA サイクルに基づき、検証を実施する。

また、外部組織における検証結果を踏まえ、町議会でも検証を行う。

【外部組織の参画者】

まちづくり委員会（町内産業団体、有識者、オブザーバー等で構成）

【検証結果の公表の方法】

HP 等において結果を公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

・法第 5 条第 4 項第 1 号イに関する事業【A3007】

総事業費 64,372 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成 33 年 3 月 31 日（3 カ年度）

- ⑨ その他必要な事項
特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) むかわ町恐竜ワールド構想推進 交流・共創拠点構築事業

事業概要： 町内の空き家・空き店舗、古民家等の活用を含めた「空家対策等計画」を策定し、空き家等をリノベーションすることで、学生・町民・民間事業者がアート・デザインを学び、アイデアを形にする場である、アトリエ機能を持った「交流・共創拠点」を整備する。

また、アトリエ機能のほかに、関係人口（むかわ町に関心を持ち、まちづくりに関わりたいと考える町外者）を創出する役割を果たす施設（関係案内所）としても整備する。

実施主体：北海道勇払郡むかわ町

事業期間：平成31年度～平成33年度

(2) 「むかわ町恐竜ワールド構想」に基づくまちづくり推進事業（地域再生マネージャー事業）

事業概要： 本町が進める「恐竜化石を活かしたまちづくり」の施策の一つとして、むかわ町への交流人口拡大を目的に、「一般財団法人地域総合整備財団（ふるさと財団） 外部専門家活用助成」を活用して、株式会社JTBと連携し、恐竜化石を核とした着地型旅行商品の開発・ガイドの育成などを、平成30年度から3年間かけて実施。

付加価値型のツアー商品の開発（化石発掘体験ツアーなど）、ツアーガイドの育成、ガイド認定制度創設の検討、知財運用・ライセンスマネジメント等の手法についての外部専門家の招聘、推進・受入体制のあり方検討（母体となる組織やDMO（DMC）化のあり方検討等）などを通して、恐竜ワールド構想推進計画の実行力を高め、交流人口拡大へのプロセス構築をめざす。

実施主体：北海道勇払郡むかわ町

事業期間：平成30年度～平成32年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

【検証方法】

毎年度、町の創生総合戦略推進組織である「むかわ町まち・ひと・しごと創生本部」、及び町の諮問機関である「むかわ町まちづくり委員会」において、PDCA サイクルに基づき、検証を実施する。

また、外部組織における検証結果を踏まえ、町議会でも検証を行う。

【外部組織の参画者】

まちづくり委員会（町内産業団体、有識者、オブザーバー等で構成）

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

【数値目標】

| | 事業開始前 (現時点) | H30 年度 増加分 1 年目 | H31 年度 増加分 2 年目 | H32 年度 増加分 3 年目 | KPI 増加 分の累計 |
|-------------------|----------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------|
| 穂別博物館来館者数 (人) | 19,389 | 1,500 | 2,500 | 3,500 | 7,500 |
| PR 動画の閲覧件数 (件) | 0 | 0 | 13,000 | 26,000 | 39,000 |
| 恐竜関連グッズ等売上額 (千円) | 326 | 500 | 1,500 | 3,000 | 5,000 |
| 恐竜関連グッズ等開発商品数 (件) | 5 | 10 | 15 | 20 | 45 |

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

HP 等において結果を公表する。